

研究種目：基盤研究(C)  
研究期間： 2006～2008  
課題番号：18520562  
研究課題名(和文) 中世ドイツの紛争解決と政治秩序

研究課題名(英文) Conflicts, Settlements and Political Order in Medieval Germany

研究代表者 服部 良久 (HATTORI YOSHIHISA)  
京都大学・大学院文学研究科・教授  
研究者番号：80122365

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・西洋史

キーワード：中世・近世・コミュニケーション・紛争・紛争解決・秩序・儀礼

### 1. 研究計画の概要

従来の法制史・国制史・政治史とは異なり、紛争と紛争解決を中世の政治・社会秩序の骨組みを形成し、また発展させるコミュニケーション行為として捉えることにより、あらたなヨーロッパ中世史研究の構築を目指した。具体的にはドイツ中世の王権（神聖ローマ皇帝）と諸侯・貴族、さらには領邦における地域社会、農村社会の紛争とその解決のプロセスを個別的に明らかにしつつ、そこに現れるコミュニケーション行為の秩序構造的な意味を捉えようとするものである。

### 2. 研究の進捗状況

(1) 12世紀のドイツ国王（皇帝）の宮廷における国王・諸侯の政治的コミュニケーションの特質、とりわけ宮廷（裁判）に持ち込まれた紛争の処理の仕方を国王証書と年代記史料の双方を照合することにより明らかにし、そこから中性的な政治秩序の一面を把握した。そうしたコミュニケーションのプロセスにおいて国王は、紛争当事者の一方を裁き、断罪するのではなく、諸侯身分の名誉と身分的特権に十分に配慮しつつ、相互間の利害調整により紛争を解決すること、それによって諸侯が皇帝政策（イタリア遠征、ローマ教皇に対するヘゲモニー、十字軍、その他の対外戦争）において一致して協力できる政治体制を維持することを第1の目的とするものであった。

(2) 13世紀の北西ドイツ（下ライン、ヴェストファーレン地方）における諸侯、貴族間の紛争と、当事者および周辺貴族の関わった仲裁・交渉・和解によるその解決、その前後に見られる諸侯間の友好同盟関係の展開を実証的に考察した。そこからこの時期、とりわけ13世紀後半においては、ケ

ルン大司教、ブラバント大公など有力諸侯を中心に、殆ど国王の関与しない自律的な諸侯・領邦間のネットワーク的關係が展開したことを明らかにした。

(3) 領邦社会における領民＝農民の間の入会地や森林などをめぐる紛争とその解決、その際の領邦の地方裁判当局の関与などを未刊行文書を用いて考察し、地域社会の慣習に基づく自律性と国家権力の社会秩序への統制の相互関係を明らかにした。そこから紛争・紛争解決というコミュニケーション行為が地域的コミュニティの政治的能動性（例えば領邦議会への出席、領邦改革の要求運動）と密接に関わっていたことをも指摘した。

### 3. 現在までの達成度

① 当初の計画以上に進展している。

12、13世紀のドイツに関しては、国王証書の網羅的調査・分析に加え、主な聖俗諸侯領の証書史料をあわせて通覧することにより、国王宮廷の政治的コミュニケーション機能が12世紀末以後、様々な点で後退したこと、他方で有力諸侯を中心とする、地域ごとの広域的な諸侯・貴族間ネットワークが、紛争解決と秩序維持を目的に展開したことを明らかにし得た。そこから中世後期についても、国家的発展を進める領邦と衰退する国王（皇帝）権力という通説的図式ではなく、領邦と帝国の間のインターテリトリアルな広域的秩序が存在したという見通しを示すことができた。

領邦内の地域社会における紛争解決の考察からは、領邦権力と社会の相互関係を明らかにし、中世後期から近世においても、紛争解決・コミュニケーション・政治秩序（国家統合）を相互関連的に考える事例とモデルを示すことができた。

#### 4. 今後の研究の推進方策

上記のように研究の進捗をみた結果、以下のよう  
な事情により、研究計画を複数研究分担者によ  
る共同研究として再編成することが、より有益で  
あると認識するに至り、最終年度前年度応募（基  
盤研究(A)）を行って採用されるに至った。すなわ  
ち紛争解決とその成果は、当該社会、集団におけ  
る凝縮されたコミュニケーション・プロセスを示  
し、そこでは当事者の実力のみならず社会（共同  
体）を構成する人々の結合のあり方、価値、理念、  
意識、アイデンティティが現れる。そして紛争状  
況をも包括する政治と社会の秩序をコミュニケー  
ションの視点から考えると、口頭、文書、象徴、  
儀礼など多様なメディアによる相互行為（インタ  
ーアクション）のプロセスが見えてくる。そこで  
コミュニケーションを軸とし、紛争と秩序の相互  
関係を考察の方法モデルとする、より包括的な研  
究が必要となる。しかしそうした研究は個人では  
困難であることから、中・近世ヨーロッパにおけ  
る様々な地域と分野の専門研究者の共同研究とし  
て、従来の研究代表者の紛争研究を発展的に再組  
織することが不可欠である。それにより中・近世  
ヨーロッパの国家と社会の新たな歴史像を構築す  
ることも期待することができる。

#### 5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下  
線）

〔雑誌論文〕（計 3件）

服部 良久「中・近世の村落間紛争と地域社会」『京  
都大学文学部研究紀要』46、157-266 頁、2007 年  
（査読無）

服部 良久「歴史叙述とアイデンティティ」（南川  
高志編『知と学びのヨーロッパ史』ミネルヴァ書  
房、2007 年）、141-166 頁（査読無）

服部 良久「中世ドイツにおける紛争解決と秩序—  
フリードリヒ・バルバラロッサの治世」『歴史と地理』  
213、1-16 頁、2007 年（査読無）

〔学会発表〕（計 1件）

服部 良久「中・近世農村社会の紛争と紛争解決—  
日欧の比較—」史学研究会大会、2006 年 11 月 3  
日、京都大学。

〔図書〕（計 2件）

服部 良久（編訳）『紛争の中のヨーロッパ中世』  
京都大学学術出版会、372 頁、2006 年。

服部 良久『アルプスの農民紛争—中・近世の地域  
公共性と国家—』京都大学学術出版会、399 頁、  
2009 年。

〔産業財産権〕  
○出願状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

服部 良久（編著）『中世ヨーロッパにおける「過  
去」の表象と「記憶」の伝承』（21 世紀COEプログ  
ラム「グローバル化時代の多元的人文学の拠点形  
成」国際セミナー報告書）、78 頁、2007 年